

# News Release

2017年9月20日  
株式会社日立製作所  
日立ヴァンタラ社

## 日立がIoTプラットフォーム「Lumada」の新しいソフトウェア群を市場投入

株式会社日立製作所(執行役社長兼 CEO:東原 敏昭/以下、日立)と日立ヴァンタラ社は、IoTプラットフォーム「Lumada」のアーキテクチャーを体系化し、それに基づくソフトウェア群を V2.0 として提供することを発表しました。新しいソフトウェア群は、お客さまが保有するデータを迅速かつ容易に利活用することをサポートし、生産性や安全性の向上、プロセスの最適化、オペレーションコストの削減、品質の改善や新しいビジネスモデルの創出など優れた成果を提供します。

V2.0 の特長の一つが、日立独自のアセットアバター(アセットのデジタルツイン\*)です。アセットアバターは、企業や工場のアセットをデジタル上に再現し、継続的に測定されるセンシングデータに基づき、アセットの状態や性能に関する知見を迅速に提供します。このアプローチは、ビジネス、マシン、ヒューマンデータからの知見を得やすくすることで、運用システムの死角を排除し、計測から管理、そして改善にスピーディーに生かすことができます。また、V2.0 では、IoTソリューションの構成・導入を容易にする強力なツールと豊富な機能を提供します。

日立は、2016年5月に Lumada を市場に投入して以来、自社工場での取り組みだけでなく、お客さまやパートナーとの数多くの PoC\*2 や顧客協創プロジェクトを基に、その強化、最適化に取り組んでいます。株式会社ダイセルとは、協創により Lumada を活用した画像解析システムを開発しました。製造現場における作業員の逸脱動作やライン設備の動作不具合などの予兆を検出し、品質改善や生産性向上を支援する画像解析システムにより、製品工程ごとの良品率の改善を実現しています。また、オークマ株式会社とは、マスカスタマイゼーションに対応した高効率生産の先進モデル確立に向けた協創を開始し、共同実証を通して生産性2倍、生産リードタイム半減をめざしています。

これらのプロジェクトを通じて培われたベストプラクティスに基づき、Lumada のアーキテクチャーを、よりフレキシブルでコンポーザブルなものに強化しました。これにより、企業や工場のアセットの管理を簡素化し、IoT 導入への時間を短縮します。IoT 基盤の導入を検討しているお客さまは、Lumada を活用することにより、制御技術(OT)と情報技術(IT)の両面での日立の幅広い専門性を活用できるとともに、お客さま固有の要望に合わせた IoT ソリューションを創出することができます。

今回、Lumada アーキテクチャーを、フレキシブル、ポータブル、コンポーザブルなソフトウェア基盤を構成する以下5つの主要なレイヤーにアップデートしました。IoT 関連開発者は、Lumada の革新的なグラウンドデザインによる優れたアナリティクス技術や高信頼なアセット管理機能を享受することができます。

Edge(エッジ)	高速生成されるあらゆる種類のデータを、アセットから容易に取り込み、変換し、分析します。
Core(コア)	アセット登録、識別、アクセス管理の機能を提供し、アセットアバターの生成を簡素化します。
Analytics(アナリティクス)	OTとITのデータを融合し、分析、機械学習、人工知能などを駆使してパターンを抽出します。
Studio(スタジオ)	警報、通知または自動処理プロセスのようなダッシュボードアプリケーションの作成を簡素化する、事前定義済みのウィジェットを提供します。
Foundry(ファウンドリー)	オンプレミスおよびクラウドでの導入を容易にする基盤サービス、さらにセキュリティ、マイクロサービス、サポート機能を提供します。

日立ヴァンタラ社 Chairman 兼 日立製作所執行役専務 小島啓二のコメント

「日立は、広範かつ専門的な OT と IT の知見を活用した Lumada で、IoT 時代のイノベーションパートナーになることをめざしています。本日発表した V2.0 の市場投入により、お客さまおよびパートナーは、人工知能(AI)、アナリティクス、アセットアバターを最大限活用することができます。また、日立との協創プロジェクト用の基盤として活用することで、デジタル革新を加速できます。これらにより、日立は独自のソリューションを提供し、IoT プラットフォーム市場を牽引していきます。」

日立ヴァンタラ社 Senior Vice President リッチ・ロジャースのコメント

「本日マーケットに投入し、開発者に公開する V2.0 に当社は大きな誇りを持っています。日立は、競争の激しい IoT プラットフォーム市場において、Lumada をより価値を提供できるものにしていきます。我々の目的は、Lumada を競合ひしめく市場の中で、他の IoT プラットフォームより価値あるものとする事です。Lumada の究極の目的は、IoT データの活用を容易にすることにより、日立のお客さまとパートナーに対して、真の価値を迅速に届けることです。当社は、Lumada の統合されたソフトウェア、ソリューション、サービスを継続的に提供し続けます。今後、すべての日立の機器を Lumada につなげ、データから付加価値を生み出し、日立グループのすべてのお客さまに価値を提供することをめざします。」

\*1 デジタルツイン: 製品に関するデジタル情報を用いて、その製品の複製(双子)をサイバー空間上に構築するコンセプト。

NASA(米国航空宇宙局)が次世代航空機開発において提唱。

\*2 PoC(Proof of Concept): 概念実証

■製品提供について

V2.0 は一部の機能について地域によってはすぐに提供できない場合があります。詳細は <https://www.hitachivantara.com/en-us/products/internet-of-things/lumada.html>。(英語サイト)をご参照ください。

■「Hitachi NEXT 2017」

今回発表した V2.0 および関連ソリューションは、9月19日(火)～20日(水)に米国・ラスベガスで開催するイベント「Hitachi NEXT 2017」で展示します。詳細は [www.hitachinext.com](http://www.hitachinext.com)(英語サイト)をご覧ください。

<日本国内の展開について>

今回、米国で発表された V2.0 のソフトウェア群は、国内外の日立グループ各社のユースケースを集め作り上げた、グローバルで統一されたアーキテクチャーに基づいて開発されたものです。日本国内においては、V 2.0 のソフトウェア群と、すでに提供している各種サービスメニューを組み合わせ、Lumada のソリューションをさらに強化していく計画です。日本国内における展開時期や内容など詳細については、随時お知らせ致します。

■日本国内に関するお問い合わせ

Lumada お問い合わせフォーム: <http://www.hitachi.co.jp/lumada/inq/>

以上

---

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。

---